

# 地酒づくりの杜氏

人吉盆地の豊富な米と球磨川の豊かで良質の水とにはぐまれてきた球磨焼酎。

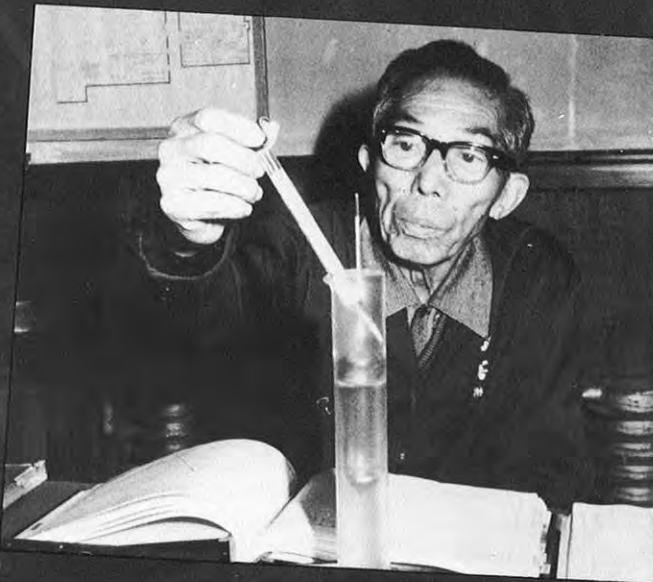
500年以上の歴史をもつといわれるこの球磨焼酎は、現在32の製造場で年間7,200Kℓが生産されている。

「人から愛される焼酎の味を求めている」という杜氏の淋豊嘉さん(75歳)はこの道60年の超ベテラン。昭和52年には卓抜した技能者として労働大臣表彰を受けた。

古い伝統を誇る醸造法から生れた芳香風味な球磨焼酎。

県産品愛用のブームに乗って今、愛飲家が増えている。

▷蒸溜した球磨焼酎を検定する淋豊嘉さん



▲ 乳幼児検診(県中央保健所)

いか。そこまでは非いきたいと思いますね。  
坂口——本県は、非常に乳幼児の死亡率が高いわけです。小児医療センターも是非実現していただきたいと思えます。  
知事——小児医療センターの必要性はおっしゃるとおりですが、実は残念ながら県で完全な小児医療センターをつくることは、まず困難です。といいますのは、対象が小児であっても、産婦人科を除いて全科が必要なんです。全科の医療施設がないと完全な小児医療センターとはいえないわけです。

今、県は富合病院という精神病と結核の専門病院一つしかもっていません。後は救急医療をはじめ、全部他の公的医療機関に頼んでいるわけです。  
従って一番効率的なのは、日赤熊本病院とか熊本市民病院、済生会病院といった全科をもった公的医療機関に小児医療センターをつくってもらいたいとお願しているわけです。  
県としても相応な負担をしてお互い協力し合って実質的にそういった医療センターとしての役割を果たしてもらいたいという計画に今なっております。

## 理想は計画的開発

桑本——交通渋滞の問題ですけれども、例えば四人乗マイカーしかだめだとか、県の方でなにか規制はできませんかね。  
小堀——私も健軍から通勤しています。が、とても渋滞がひどいですよ。  
知事——そのことは私の方で大部研究したんですがね。マイカーの規制なんて燃料の節約という面からいいことだとは思いますが、  
ただ交通渋滞の緩和で、私がお願したいのは、バイパスの建設をするにしても一番困るのは用地の確保ですね。  
補償体制の問題があるかもしれませんが、協力していただかないと、道は一メートルもできないわけですからね。計画はありますけれど、用地買収で四苦八苦しているわけです。  
卯野木——都市化が進むなかで、一番影響を受けているのは農業だと思えます。生産意欲があってもなかなかやれない状態にあるわけです。工場誘致、道路網の整備、住宅建設等で農地が流れてしまつて、生産環境を非常に悪くしているわけです。

熊本県が、不況にある程度強いということ、農業が支えになったという気がします。

そういう面からも、調和のとれた発展ということが必要だろうと思えます。なんといっても農業問題というのは、土地問題なんです。

知事——一番の理想は、熊本県の全県土を区分して、ここは将来農地として確保するとか、ここは居住地を含めた市街地、ここは工場誘致用地というように、各市町村ごとに土地の利用区分を明確にし、計画的に開発をすすめるということが理想でしょうね。

ところが現実には、土地自体が個人所有だからなかなかうまくいかない。完全な国有地なら計画どおりにいけるでしょうけれどね。  
それをどの程度まで調整するかということが行政の責任でしょうが、なかなか難しい問題ですね。  
やはり土地問題について、もっとしっかりとした基本方針をたてて、国が法律をつくるなり、制度を確立するなりしてはいかんというのは、そのとおりですね。  
どうも、長時間ありがとうございました。